

平成14年4月15日

第 13 号

(年一回発行)

京都教育大学  
附属京都小学校  
東 櫻 同 窓 会

# 東櫻だより

〒603-8164  
京都市北区紫野  
東御所田町37  
TEL  
(075)441-4166~7  
発行人 千宗室会長  
題 字 千宗室会長  
印刷 山代印刷K.K.

## 「母校創立120周年記念 東櫻同窓生のつどい」のお知らせ



上空から見た母校



## 御 挨拶

東櫻同窓会会長 千 宗室

東櫻同窓会の会員の皆様には、益々御健勝にて多くの分野において御活躍のこととお慶び申し上げます。

本年は私達の母校京都教育大学教育学部附属京都小学校が、明治十五年（一八八二年）二月一日に、京都府師範学校附属小学校として創立されてから百二十周年の記念すべき年にあたります。

この百二十年の間に母校を卒業致しました本同窓会会員は一万二千五百七十七名を数え、現在六百八十一名の児童が母校に学んでいます。

本年六月十六日（日）に開催が予定されています「東櫻同窓生のつどい」は、この「母校創立百二十周年」をお祝いする総会に致したいと考えて居ります。

多数の同窓生の皆様方が御出席下さる様お願い致します。

さて、昨年は、二十一世紀最初の年ということで大きな期待が寄せら

れていたのですが、米国で起りました同時多発テロを初め世界中で悲しい事件が続発した年でありました。

又、我が国においても教育の場で児童が危害に遭うという、まことに痛恨の事件が起った年でありました。この様な暗い社会情勢から脱脚して明るい世界を築く為には、かえりみて他をとがめるだけでなく人類全体としての反省に立つた問題の根本原因についての分析と精神の再構築についての努力が必要であると考えられます。

母校創立百二十周年記念総会を機に、私達東櫻同窓生の一人一人が世界の明日への希望を創り出したいものと強く念願して居ります。



## 御 挨拶

前 学 校 長 和 田 尚

東櫻同窓会の会員の皆様には、御健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は本校に対し、物心両面にわたりご支援を賜り誠にありがとうございます。

本校は今年二月一日に創立百二十周年の記念すべき日を迎えました。栄えある歴史と伝統を創造してこられた卒業生の皆様に、心より敬意を表するものであります。当日は式典を催し、同窓会からも祝辞をいただきました。また、同窓会から水槽を寄贈していただきました。児童の環境学習に役立つものと期待いたしました。

百周年記念誌を補遺し、百一年目から今日までの足跡をまとめた記念誌を編纂いたしました。この記念誌が附属京都小学校の新たな一歩となることも、一層の発展をもたらす機会になりますことを祈念いたしております。

今年度から新指導要領が実施されたり学校五日制が実現されたりするなど、学校を取り巻く環境も大きく変わりました。私たちはこうした時代の背景を踏まえ、子どもたちの確かな成長を実現させるための努力をして参ります。

現在、国立大学法人化の方針が示される一方で、再編・統合が積極的に進められています。附属学校のあり方も、さまざまな議論がなされています。このような現実に向き合い、本校でもよりよい方を求めて努力しております。今後ともご支援を賜りますとともに、暖かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

私事ですが、三月末に校長を退任いたしました。同窓会の皆様のご厚情に心よりお礼申し上げますとともに、東櫻同窓会の益々のご発展をお祈りいたしております。

# 附属京都小学校

## 創立百二十周年を迎えて

附属京都小学校 前副校長 三野 衛

平成十四年(二〇〇二年)二月一日(金)附属京都小学校は創立百二十周年を迎えました。京都府師範学校が一八七六年六月に創立されたことですから、その六年後に附属小学校が設立されたこととなります。

当時の記録によると、「師範学校食堂の南を修理分割して、附属小学校教室とし、第一回入学児童四十九名に対する教育を開始した。当初は専任の訓導がおらず、師範学校の上級生が交代で実地授業の練習をかねて教育にあたった。」と記されています。それから百二十年、学校の所在地は京都府師範学校の移転、京都市の行政区画の整理等に伴って八回、学校名も教育制度の変遷等に伴って十一回も変わっています。毎年毎年、創立記念日には記念式をし学校のことを振り返ってきました。

今年(百二十年)という節目の年です。特に百二十年という時の重みと、それぞれの時に生きた人のことを考

えられるようにと思い、次のようなことを行いました。

### 1. 「夢(ゆめ)」

(百二十年目のきんもくせい)



折りもあり、二〇〇一年度は二十一世紀始まりの年。子どもの編集委員会が、二〇〇〇年度時点での学習の様子や学習内容、暮らしや遊びなどを写真化、文章化、絵画化し、それを文集にしたものです。なお、「夢(ゆめ)」という表題は、子どもの編集委員会による話し合いで決めたものです。

### 2. 百二十周年記念誌

(百年誌補遺版)



百周年の時に立派な記念誌が出版されています。百周年以後の二

十年間京都小学校にもいろいろなことがありました。昭和五十七年度(一九八二年度)から平成十三年度(二〇〇一年度)までの二十年間の京都小学校の変遷を編纂しました。各年度の主な学校行事、授業研究などを掲載したものです。

### 3. 学校ピオトープをつくる。

附属の森を池を中心に改修し、総合的な学習の時間も利用して、子どもたちにできるところは子どもたちの活動でつくってきました。池を中心にした閉鎖系のピオトープです。泥沼にならず、年月が経つに従って生態系も安定し、環境教育の活動にも生かすことができましたと考えてい



ます。魚が泳ぎ、水生昆虫が生息し、子どもたちが自然を身近に感じ、子どもたちが働きかけ、観察できるスポットとなることを願っています。

### 4. 航空写真入り記念下敷き

百二十周年を記念して、大運動場に全校児童と教職員で人文字を描いて撮影しました。人文字を描き、全ての校舎が写った写真と、全校児童教職員の集合写真、校歌を入れた記念下敷きを作成しました。



### 5. 同窓会寄贈大型水槽

今年三月に設置されました。



しています。

袖岡 實先生



昭和三十八年から  
昭和四十六年まで  
在籍(社会)

京都市教育委員会週三回程の勤務で嘱託をしています。学校廻りもあるのですが、時々教え子に会い、昔を懐かしがっている今日此の頃です。

田尾 荔先生



昭和四十三年から  
昭和四十九年まで  
在籍(社会)

月、水、木、金はテニス。ゲームを争い、ゲームを見る。そしてそれを語り合う。人との交わりには、楽しさが一杯です。土、日、火は晴耕雨読。貸し農園を街の北に耕作しています。雨読は、日本史、フランス文学などを乱読しています。

岩井幸子先生



昭和四十五年から  
昭和四十七年まで  
在籍(図工)

趣味の水彩画とコーラスを週一回ずつ楽しんでおります。好きな山歩きは只今小休止。ガイドブックを見ては机上ハイクを楽しんでいます。

飯田博朗先生



昭和三十六年から  
昭和四十七年まで  
在籍(社会)

すぐ車に頼ってしまつ生活から、健康上の問題も含め、ウォーキング重視へ方向転換。このためにも、遺跡探訪の時間を少しでも多くとることに努めている毎日です。

伊藤裕健先生



昭和三十四年から  
昭和四十三年まで  
在籍(国語)

町の教育委員など地元役をいくつか引き受けています。一昨年脳梗塞で倒れ、しばらく生死の境をさまよいましたが、奇跡的に回復し、これという後遺症もなく、気をつけながら元気に日々を送っています。

大倉 晶先生



昭和三十三年から  
昭和五十四年まで  
在籍(理科)

京都市青少年科学センターに勤めています。附属中学に勤めておられた小倉敏美先生と同じ仕事をしています。

金森光熙先生



昭和四十五年から  
昭和五十二年まで  
在籍(音楽)

定年退職後、京都市教育委員会の仕事を続けています。特別社会教育指導員と京都市立京極小学校で新規採用教員の指導に当たっています。また、京都市音楽教育研究会の顧問をしております。

中島 修先生



昭和四十六年から  
昭和五十二年まで  
在籍(社会)

幼稚園に勤務しております。(二つの幼稚園を兼務)

瀬戸口孝子先生

昭和二十八年から昭和五十二年

まで在籍(家庭科)

かな書道の研究を続けています。弟子が数名おります。かな作品は、水穂書展、京都書作家展に出品しております。

細川正臣先生

昭和三十六年から昭和四十五年まで在籍(音楽)

京都市特別社会教育指導員、合唱指導(生涯学習総合センターの五グループ)、女声合唱団コール・コンカローレ指揮者をしております。

西野智子(旧姓大江)先生

昭和四十三年から昭和四十六年まで在籍(家庭)

京都市清水児童館館長として、日々勤務いたしております。

藤田幸雄先生

昭和三十三年から昭和四十六年まで在籍(算数)

成基学園で算数科の受験学習指導に専念しています。元氣いっぱい、やる気いっぱいの子供たちに接しているためか、健康そのものです。

田邊圭子先生

昭和四十年から昭和四十四年まで在籍（音楽）

終焉までの道程をなるべくおだやかに、つましく送ろうと心掛け、余生を送っています。時々足が痛むことが有ると、附属にかけた迷惑のこれが贖罪なんだと受容しています。

小紫修二先生

昭和四十五年から昭和四十九年まで在籍（体育）

西大路小学校の校長として五年目を迎えます。全校六クラス（各学年一クラス）の小規模な学校ですが、保護者、地域、教職員の協力を得て、楽しく過ごしています。

馬場保彦先生

昭和四十六年から昭和五十二年まで在籍（理科）

入院生活後、定年退職しました。今は家でゆっくりしています。



附属京都小学校（教師・生徒）について

子供の協調性や自主性を伸ばす狙いで、グループ学習という形態をとったが、このやり方はよかったと思う。

生徒はみんなしつかりしていた。そしてみんな発言力があつた。但し先生も同じ。若い先生が多いので、「しろ！」調で生徒には言っていた。

遠足や修学旅行の集合場所を、他校は学校にして全員で駅に向かったが、附属京都小学校の生徒は駅にしてもみんな自分で時間通りに集まってくれた。

これは毎日の通学経験の賜物であるが、一方、交通局などから苦情の電話も少なくなかった。お膳立てをすればすべつまくやってくれる。運動会や学芸会なども練習ではちゃんぼらん

であつても、本番ではきつちり行なってくれた。

当時としてはすべての教科でハイレベルの授業をしてきたが、よくついてきてくれた。また、

鍛えればみんなよく出来た。

教科書以外のことも教える自由な授業内容であつた。当時の先生方は教え方がうまかつた。

教え方を学び、子供を伸ばす。自分自身にも勉強になり、その後の教育活動の原動力となつた。次の赴任先で、ここでの経験が役に立つた。

生徒の名前と顔が担任三日目になつても一致せず、ある生徒に「君はこの組やつた」と尋ねたところ「先生の組です」と言われたことを（その生徒の顔も）忘れられない。今でも悪いことをしたと思っている。

男子は「おつとり」女子は「活発」という印象が強く残っている。学級会など完全に女子が制圧していた。子供たちはギャングエイジだったが、その中に入って一緒に楽しんでいた。



臨海学舎の思い出

単独の学年ではなく、四、五年の二学年を一緒に連れて行ったことに意義がある。

校長、教頭以下すべての先生が一要員として、水泳指導委員会の委員長（若い先生）の指示・命令に従っていた姿には驚いた。教師・生徒それぞれが努力しなければならぬ行事が多かつた。寝泊り行事も多かつた。

夜に家族のことを思い出し泣き出す生徒、なかなか寝付かずに本性を發揮した生徒がいて、朝方まで生徒と格闘した思い出がある。

前任校で三泊四日の臨海学舎がいやで、二泊三日にしたのに、附属京都小学校に来て、「夏の臨海学舎は三泊四日」と聞いていやな気がした。しかし、他の先生には怒られるかもしれないがこちらのほうが若い先生が多く楽だつた。

ポート遊びなどがあり『楽しい臨海学舎』という印象がある。

宿舍の関係で前後半に分かれて実施したとき、ぶつ続けて丸々八日間高浜で過ごしたことがある。昼間は炎天下の砂浜、夜はキャンプファイヤー、夜間の見回りとよく体が持ったものだ。でも、帰った後の子供たちの成長振りを見て、疲れも吹っ飛んだ。

ある附属小学校と一緒にあったことがある。朝の検温に始まり、海ではロープやネットを張り(胸ぐらいの深さのところ)その中の水泳。ぬれた体も教師が一人ずつ拭いていた。こちらは自由に伸び伸び。この違いに教師も宿舍の人もびっくり。今でこそ言える新事実! 1kmの大遠泳とは名ばかりで、実は八百m位しかなかった。(少し距離は短くても、その後の自信につながっただろう。)

林間学舎・適応遠足・スキー  
教室の思い出

日曜日などに下見に行く。高橋先生、迫田先生の健脚に新人教師はたまらなかった。

山で子供を鍛えることが出来る学校である。獣道だろうがなんだろうが、道なき道でも歩いて言った記憶がある。昼食場所は決めていなかった。時間が来ればそこで昼食。予定時間より遅れた場合はおやつ時間をカットした。

御所の周りを走る適応遠足を実施したが、「集団で走ると埃が立つ」とクレームがあり、二回で取りやめた。比叡山のスキー教室で、雪が少なく小さな傾斜を利用して、楽しく滑ったことが懐かしい。

研究発表会・保護者参観・  
教育実習生

研究発表会、保護者参観時の来校者の多さには驚いた。附属京都小学校は『教育研究の場』という宿命であるが、研究発表会の授業では緊張した。

研究発表会の授業、教育実習生の指導に責任の重さを感じた。実習生に、「先生がまじめなら、喜んでモルモットになりましよう」と言った生徒がいた。高

学年になるほど良くも悪くも実習生慣れしているところがあつた。あまりにも実習生の言うことを聞かなかったので、「実習生にも成績がつく。協力してやれ。」と一喝したら、素直に応じてくれた。

入試について

あの抽選方法はすばらしい。しかし、受験者数と札の数のチェツクなど大変な労力を費やす。入試にまつわる附属小学校の不祥事が各地に起こったころ、細心の注意を張り巡らせ、不正から現職者を守ろうとした先輩に感心するとともに感謝した。

その他の思い出

今の『附属の森』のところにあつた木造二階建ての南校舎の取り壊しが決まったとき、「壊さないでほしい」と子供たちが密かにバリケードを築いていた。大学紛争で、ヘルメット姿の学生が小学校に逃げ込んできた。

校歌の「ああ附属 附属京都小学校」は二番の最後に歌い出すのですが、一番や、二番を歌い終わって「ああ」と歌う子がいた。必死に指導したが始・終業式に「ああ」「ああ」と飛び出してしまつ子が多かつたところが、昭和四十七年度の卒業式では、一人も間違えずに、正しく、しかも大変美しく歌い上げてくれた。それがどんなに嬉しかったことが。今でもはつきり思い出すことが出来る。



当日お集まりいただいた先生方を囲んで

## 活躍する同窓生

大蔵流狂言師 茂山 茂氏

平成十三年十一月十日、御所に程近い上京区の茂山家をお訪ねし、同窓生の茂山茂氏（昭和六十三年卒業）に小学校の思い出や、狂言への取り組み、将来の抱負などをお尋ねしてみました。

茂氏は、この日も舞台を終えて、帰宅されたばかりのところでしたが、快くお時間を割いて頂き、たいへん気さくにお話を聞かせて下さいました。

第一印象は、現代っ子らしくサッパリとした感じ。しかし、お話ししているうちに、若さの中に、和の落ち着いた感じを感じることができました。

小学校の思い出をお聞かせください。

小学校の時は個性の強い担任の先生方との出会いが印象的でした。

一年生は国語の鈴木先生で、ひらがなの教科書に漢字の切り抜きを貼



られました。「とにかく読めなくても、書けなくてもいいから貼りなさい。」という具合でした。でも、これで急に漢字を身近に感じた記憶があります。

三年生、四年生は体育の山本先生で、器械体操や跳び箱、マット運動が得意になりました。これは狂言でも大いに役に立っています。狂言で

は身の軽さが必要ですが、まさにその御陰という感じです。

五年生、六年生は図画工作の岩瀬先生で、給食の時間にはよくギターを弾いてもらいました。これもまた情操面の成長に役立ったと思います。それと、なぜか体育はサッカーが中心で、ちょうど紫サッカー少年団にも入っていましたので、思いっきり楽しみました。今でもサッカーは大好きで、ワールドカップも楽しみです。

やはり小学生の時から毎日狂言のお稽古をされていたのですか。

初舞台は四歳一ヶ月でしたから、

お稽古は物心のつく前、三歳位からでした。兄とは三歳違いますが、兄弟と同年代の従兄弟という子供だけで舞台をしたのは小学校の三、四年の頃だったと思います。

でも、お稽古は毎日というわ

けではありませんでした。じつはあまり記憶にはありません。もちろん、放課後は友達と遊んでいましたから、舞台が近づいてきたら二、三ヶ月前から集中して、お稽古していたような気がします。

狂言師になろうと決意したのはいつ頃ですか。

それまでもずっと狂言をしていたのですが、高校三年生のとき、将来の進路を決める時期にはっきりと狂言師になろうと決心しました。

茂山家では、長男以外は狂言の世界に入るかどうかはまったくの自由で、それぞれが入った以上はたとえ力量不足で認められなくても後は自分自身で何とか自立して行かなければならないという方針です。つまりは、親からの責任放棄を宣言されるわけです。ですから、私もまったく自由な選択で、この狂言の世界を選びました。

ところでコンピュータに興味をお持ちのようですが。

茂山家はさすがに文系の人間が多く、理系は私ぐらいです。じつは一

時は狂言から少し距離を置いて、コ



ンピューターの専門学校にも通ったことがあります。しかしながら、この経験がホームページの立ち上げ時に生かすことができました。今では当たり前ですが、九十五年当時には、まだ周囲の人たちも、インターネットやホームページ、メールなどと言っても、何をどうしてよいやら霧の中でしたから。何が役に立つかわからないもので、今ではコンピュータは六台ありますが、ホームページはもちろん、名簿の管理や経理にいたるまで色々な面で活躍しています。

**狂言の演目は二百曲以上あると聞きますが、現在のレパートリーは。**

今すぐできるのは四十曲くらいです。役にすると百八十役くらいになります。

日頃の舞台では、役は父や叔父が決め、若い私達は与えられた役を演ずるといのが普通ですから、なかなか自分自身が演目や役を選ぶということができません。しかし、叔父・茂山千三郎や兄達と主催する、若手六人による「TOPPA!」での舞台を通じて、新しい自分への取り組みとして、あえて自分にとって

難しい演目にチャレンジしています。

しかし、海外公演なども入れますと、年間三百三十日位は舞台がありますので、実際は一公演一公演が修練の場なんです。

本当に何も無い休日というのは年に二十日くらいですので、趣味も持てないくらい狂言中心の生活を送っています。

**茂山家のモットーであります「お豆腐主義」についてお聞かせください。**

これは私の曾曾お祖父さん(茂山正重(二世千作))が言い出したことなんです。一言でいいますと、「豆腐のように庶民の生活に身近に」ということです。

これは、能や狂言はもともと武家識学でありました。明治維新で武家社会が崩れ、その抛り所を失うことになったのですが、それにもかかわらず能や狂言は伝統にとらわれ敷居が高く、庶民にはほとんど知られない存在でした。

これを何とかしようと、曾曾お祖父さんが、町内会の寄り合いなどでここでも出て行って狂言を演じたのです。これを見ていた人たちが、「茂

山のとこころの狂言は、どこにでも売っている豆腐みたいな狂言やな。」と悪口を言われたのを「豆腐でエエやないか、広く一般の人たちに楽しんでもらえる狂言でエエやないか。」と逆手に取ったわけです。

**茂山ファミリーについて教えてください。**

普通の人はいませんね(笑)。毎日誰かが、変わったことをしはります。とにかくみんなポジティブな考え方をします。いやむしろネガティブなところには気付かないだけかもしれないですね。いわゆるマジボケですから(大笑)。

それに、とにかく大家族ですから。昔ながらのいいところが残っています。大家族でいると、親が面倒見られないとき、誰かが小さい子供をみます。だから親も安心して自分の用事ができるし、子供も家族の一員といますから安心です。私も曾曾お祖父ちゃん曾曾お祖母ちゃんに見てもらっていた記憶がありますが、そのとき家族は九人でした。

今の核家族は大変です。二四時間母親が子供とべったりいるわけで、大変しんどいことだと思えますね。

最近問題になっている幼児虐待でも、そのへんのことがあると思えます。たとえ家事をしても、見てくれているお祖父ちゃんやお祖母ちゃんがいれば、気にせず自分のペースでできるのですから。ゆったりと色々考えられますからね。

**これからの活動についての抱負をお聞かせください。**

テレビに出る話もありましたが、今はまだ出たいとは思いません。私の舞台を見たことのない人に使われるのはいやだし、まだまだ狂言の勉強をしなければなりませんから、時間的に難しいこともあります。

祖父の茂山千作は、独自の世界で、自分の世界を築けるよう、頑張らなければなりません。

役者の個性は、与えられた役を誠実にこなして行く中で自然とできるものであって、考えて作るものではないと思います。だから、無理に愛嬌をふりまくよりも自然体で一つの舞台を一生懸命するしかないと考えています。

小学校へのメッセージを一言お願いします。

私は小さい時から狂言の仕事をしています。小学生としてもあまり優等生の方ではなかったと思いますが、それでも今の自分自身を見て、子供は育つように育つものだとおもいます。

最近の子供たちは、何か違う方向に進んでいるように思います。甘やかさず、競うことや努力することの大切さを改めて教えることがむしろ今必要だと思えますし、競うことを知らない人は成長しないのではないのでしょうか。

将来、子を持つであろう者として、ぜひ今後は色々な機会をみて、小学校や子供たちにもっと接したいと思っています。

これからも同窓会にはお世話になると思いますので、宜しくお願い申し上げます。

インタビューを終えて

われわれ幹事学年の四十七、四十八、四十九年の卒業生には、京都岡

崎の観世会館での狂言の鑑賞会が印象深く、鑑賞後には友人と真似てあれこれと言いつつ合っていたことが思い出されます。

そんなことから、平成十四年六月の百二十周年の同窓生のつどいでは、同窓生に素晴らしい役者さんがいることを知り、ぜひ狂言をお願いしたいと依頼しました。

お話を聞きまして、まだ二十六歳の若さながら、日本の伝統芸能に深くかかわっておられる役者さんだけあって、頼もしく落ち着いた好青年という印象を受けました。

また、茂氏の同級生には、パイオリニストの希生・ザイラーさんや宝塚歌劇団の田口恵都子さん、三味線奏者の小倉健吾さんなど芸術家がたくさんおられ、なかなか将来楽しみな学年でもあります。

演目は、取り違え物の一つである「末広がり」で、皆さんの日常でもあるような勘違いを題材とした親しみやすい演目ということで、茂山茂氏とお父様の茂山千五郎氏に演じていただきます。今から当日の舞台が楽しみです。



大蔵流狂言師 茂山 茂 (本名同じ)

1975年(昭和50年)9月9日、大蔵流狂言師 茂山正義(現 十三世 千五郎)の次男として生まれる。3歳の時より曾祖父 故三世 千作(人間国宝・芸術院会員)祖父 四世 千作(人間国宝・芸術院会員)・父 正義(現十三世 千五郎)に師事。4歳の時に小舞『柳の下』にて初舞台。その後『千蔵』『三番三』『釣狐』を抜く。1994年(平成6年)に従兄弟の茂山宗彦・逸平らと共に《花形狂言少年隊》を結成。同年の旗揚げ公演以来、毎年《花形狂言少年隊》としての自主公演をおこなっている。舞台上活躍している狂言師が同年代ということで、若年層の観客が狂言を身近に感じ、各地の狂言会にも若者の観客が目に見えて多くなったという点において、《花形狂言少年隊》の功績は

大きい。また、東京において《狂言小劇場》を兄の正邦、従兄弟の茂山宗彦・逸平らと年4回の公演を1995年(平成7年)より続けている。また2000年6月より千三郎、正邦、宗彦、逸平、童司と共に、「心・技・体、教育的古典狂言推進準備研修練磨の会=通称TOPPA!」を主催。企画製作そして出演までを自分たちでおこなうTOPPAを通し、古典狂言の魅力を存分に味わっていただき、自らの芸を磨くことを目的としている。現在は、若年層をターゲットに狂言の普及を目指した活動をしている。

| 西暦   | 年齢 | 足跡   |
|------|----|--|
| 1975 | 0  | 9月9日 大蔵流狂言師 茂山正義(現十三世 千五郎)の次男として生まれる<br>3歳の頃より曾祖父 故三世 千作(人間国宝・芸術院会員)祖父 四世 千作(人間国宝・芸術院会員)・父 正義(現十三世 千五郎)に師事 |
| 1979 | 4  | 小舞『柳の下』で初舞台  |
| 1980 | 5  | 映画『百地三太夫』に出演   |
| 1989 | 14 | 京都能楽養成会に入会   |
| 1993 | 18 | 『千蔵』を抜く  |
| 1994 | 19 | 『三番三』を抜く<br>《花形狂言少年隊》を茂山宗彦・茂山逸平と結成   |
| 1995 | 20 | 東京博品館劇場にて《狂言小劇場》第1回公演  |
| 1996 | 21 | 東ヨーロッパ公演参加   |
| 1998 | 23 | 『釣狐』を抜く  |

# 「たのしい給食をめざして」

本校栄養士 糸本 晴子

給食室前の栄養黒板に『今日の献立』について書いてある時などに、子どもたちから「いつもありがとう」、「昨日のイギリス料理おいしかった。又作ってね」とうれしい声をかけられます。

ささやかなことでもうれしいことは、調理員さんにその日のミーティングで伝えて、共によろこびます。作り手の方が子どもたちから元気をもらいます。

調理員さん方からも、調理方法やスパイスの使い方など積極的な意見が出されます。子どもたちに、おいしく楽しい給食時間を持ってもらいたいという気持ちで、お互いの中にどんどんふくらんで、アイデアが出され、活気ある給食室です。

少々負けた言い方ですが、子どもたちに外国の食文化も伝えたい。又「京のおばんざい」をはじめ、日本の各地の郷土料理も伝えたいと想いがつのります。



世界の味めぐりは、平成九年五月に、タイの大学から視察にこられた方々をスクールランチでおもてなしたことをきっかけにはじめました。六月にはハワイ料理、七月は韓国料理と続いて、今月で二十五ヶ国四十九回目となりました。本校は独自の献立が提供できることで、保護者の方々、先生方のご理解が深く、いつもあたたかいご支援をいただいているので続けられてきたとうれしく思っています。

中でも、子どもさんを通して、ご家族に外国の方がいらっしやるご家庭にお願いしてレシピを教わりまして世界の味めぐりの日のことは、大変忙しかつたのですが楽しい思い出

でもあり、私共の宝ものです。アイランド料理・メキシコ料理・ブラジル料理・オーストラリア料理や、ハワイ料理等教えていただいたお母様方には、調理室でポイントをご指導いただき、教室では子どもたちの様子を参観され、大いに盛り上がった給食でした。ご家庭と学校とが連携をとり笑顔いっぱい、健康な子どもたちを育てていく、一つのお手伝いをさせてもらっているという責任をあらためて感じています。

子どもたちには「食」を通して他への思いやりを深めると共に、物を大切に作る気持ちも大事であることも伝えたいと願っています。



| 2002年 1 がつ の きゅうしょく |   | 献立のしよく(ひか)： 献立力(ちか)を高める<br>献立のしよく(ひか)： 献立のしよく(ひか)を高める   |   |
|---------------------|---|---|---|
| 献立                  | しよく(ひか)   | 献立  | しよく(ひか)   |
| 10日(木)              | 鶏、ごはん、おもち、きんぴら、油、コーン<br>豚、肉じゃが、にんじん、たまねぎ、しいたけ、りんごゼリー<br>卵、ミルク、白あん、お味噌、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                            | 鶏、ごはん、おもち、きんぴら、油、コーン<br>豚、肉じゃが、にんじん、たまねぎ、しいたけ、りんごゼリー<br>卵、ミルク、白あん、お味噌、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                            | 鶏、ごはん、おもち、きんぴら、油、コーン<br>豚、肉じゃが、にんじん、たまねぎ、しいたけ、りんごゼリー<br>卵、ミルク、白あん、お味噌、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                            |
| 11日(金)              | 鶏、ナン、通、じゃがいも、バター、ごぼう、さつま芋、マヨネーズ<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁、(生)とうもろこし、(生)とうもろこし<br>卵、ミルク、お味噌汁、大豆、スキムミルク、お味噌汁、ヨーグルト | 鶏、ナン、通、じゃがいも、バター、ごぼう、さつま芋、マヨネーズ<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁、(生)とうもろこし、(生)とうもろこし<br>卵、ミルク、お味噌汁、大豆、スキムミルク、お味噌汁、ヨーグルト | 鶏、ナン、通、じゃがいも、バター、ごぼう、さつま芋、マヨネーズ<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁、(生)とうもろこし、(生)とうもろこし<br>卵、ミルク、お味噌汁、大豆、スキムミルク、お味噌汁、ヨーグルト |
| 14日(月)              | 成人の日  | 成人の日  | 成人の日  |
| 15日(火)              | 鶏、パテ、油、かたくり、さとう<br>豚、お味噌汁、たまねぎ、にんじん、はくさい、しょうが<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                      | 鶏、パテ、油、かたくり、さとう<br>豚、お味噌汁、たまねぎ、にんじん、はくさい、しょうが<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                      | 鶏、パテ、油、かたくり、さとう<br>豚、お味噌汁、たまねぎ、にんじん、はくさい、しょうが<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                      |
| 18日(木)              | 給食の献立(お祝い)  | 給食の献立(お祝い)  | 給食の献立(お祝い)  |
| 17日(水)              | 鶏、パテ、マカロニ、油、バター、ごぼう、じゃがいも、りんごゼリー<br>豚、たまねぎ、にんじん、プロックロー、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                        | 鶏、パテ、マカロニ、油、バター、ごぼう、じゃがいも、りんごゼリー<br>豚、たまねぎ、にんじん、プロックロー、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                        | 鶏、パテ、マカロニ、油、バター、ごぼう、じゃがいも、りんごゼリー<br>豚、たまねぎ、にんじん、プロックロー、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                        |
| 18日(金)              | 給食の献立(お祝い)  | 給食の献立(お祝い)  | 給食の献立(お祝い)  |
| 21日(月)              | 鶏、パテ、さとう、じゃがいも<br>豚、たまねぎ、にんじん、(生)トマト、肉じゃが、キャベツ<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                     | 鶏、パテ、さとう、じゃがいも<br>豚、たまねぎ、にんじん、(生)トマト、肉じゃが、キャベツ<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                     | 鶏、パテ、さとう、じゃがいも<br>豚、たまねぎ、にんじん、(生)トマト、肉じゃが、キャベツ<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                     |
| 22日(火)              | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  |
| 23日(水)              | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  | 第1次卒業生の日(家庭学習の日)  |
| 24日(木)              | おたけみ献立 世界の味めぐり(48回目) (アンコールメニュー)<br>(作り料理) { アニバーサリー、お祝い、お祝い、お祝い }  | おたけみ献立 世界の味めぐり(48回目) (アンコールメニュー)<br>(作り料理) { アニバーサリー、お祝い、お祝い、お祝い }  | おたけみ献立 世界の味めぐり(48回目) (アンコールメニュー)<br>(作り料理) { アニバーサリー、お祝い、お祝い、お祝い }  |
| 25日(金)              | 鶏、ごはん、油、じゃがいも、ごぼう、バター、コーン<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                 | 鶏、ごはん、油、じゃがいも、ごぼう、バター、コーン<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                 | 鶏、ごはん、油、じゃがいも、ごぼう、バター、コーン<br>豚、たまねぎ、にんじん、にんじん、お味噌汁<br>卵、ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁                                 |
| 28日(月)              | ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   | ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   | ミルク、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   |
| 29日(火)              | カットパン、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   | カットパン、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   | カットパン、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁、お味噌汁   |

1月4日(木)は、1月15日(日)に代わります。1月15日(日)は、1月16日(月)に代わります。

# 年次だより

## 昭和四四年卒

角川・高橋両学級を卒業した私達「たつみ会」会員は、二十世紀中は元氣者十名以上が毎春京都に集まって、終日昔話に花が咲きましたが、二十一世紀に入ると急に故障者続出で、平成十三年はこの楽しい会合も休止せざるを得なくなり、残念でしたが一時休んで、良い折を選んで是非、少人数でも集まろうということになりました。止むを得ません。

同窓会年次理事として、いつも附小と連絡をとってくれていた、あの元氣そのものの小畑喜美子さんが急病で他界され、実に寂しい限りでした。一回御冥福を祈っております。

私達は男女ともども青年期が戦中戦後で、苦勞しながら何とか無事に乗り越えた運の強い者ばかりです。八十路半ばに達した現在、人数はもう減る一方ですが、自重自愛を第一に、何とか元氣で長生きしたいと頑張っております。

(加藤正信)

## 昭和五年卒

昭五会

来年も元氣で会おうと、言葉を残して

別れて一年。待っていた時が本年五月二十三日にやって来た。十名が東京、松山からも出席して、新都ホテルで開催。八十路の年齢になっても子供の頃の話が尽きず、お互いの健康を喜び時を忘れて過し、又来年元氣でと約して散会した。

(青野浩一)



## 昭和六年卒

昭六会

最近は何歳かの膝や腰を痛めて正座できない人がふえ、旅行には階段の上り下りが苦手となり、目下は昼食会でゆっくり語り合っています。今年には宇治の花

見を含めて六回昼食会で楽しみました。人生はこれからと次回を楽しみに元氣つけて散会しています。

(和田謹介)



## 昭和七年卒

七互会

(平成十二年度)

十一月十日正午より料亭「入舟」(京都ホテル)にて、八十路に入りさすがに欠席が多く、出席は七名でした。併し、初めて参加して頂いた木村ノブさん(旧姓飯室)の元氣な姿を見て、今年度の世話の仕甲斐があったと喜んでます。三時過ぎ、「チョコあられ」を土産に解散しました。

(広田長二郎)

(平成十二年度)

十一月七日正午より「ガーデンパレ

ス(蛤御門前)にて。新世紀最初の会に八名が集い、各自の近況やクラスメートの情報、心掛けている健康法など語り合いました。和やかなひと時は瞬く間に終ち、三時過ぎ「湯葉ちりめん」を土産に帰途につきました。

(船越 滋)



## 昭和八年卒

八桜会

平成十二年の八桜会は、母校のランチルームに十三人集まりました。すっかり新しくなった校舎ですが、お弁当を頂き唱歌を唄いました。十三年度の集まりは遠方から来られる方を考えて、駅の隣りのリーガロイヤルホテルの「吉兆」で十人が集まりました。

今迄お返事の頂けなかった方まで全員のお御近況も届きました。又四年生の時の女子の組の受持だった岩城先生(室田先

生)の九十二才のお元気なお写真とお便りが、第一頁を飾る会誌も出来ました。八桜会は全員八〇(ハチチー)才。来年もお会い出来ませう様に。(宮本鞠子)



青雲会

### 昭和十年卒

毎回場所を変えて六月頃に集まっていますが、今年は六十回目となりました。今年には円山公園の坂本竜馬の銅像の近くにある料亭「いそべ」に集まりました。桜は過ぎましたが初夏の緑の風を楽しみました。出席者は男子十名、女子五名でした。最近はみんな正座が困難になり、会場えらびも制限されますが、京都はさすがにまだ良いところが残っています。毎年来ていただいていた先生がたも亡く

なられたり病気になられたり寂しくなりました。祇園の舞子さんたちに慕われ、私たちもお相伴させてもらった有名な西出稔君が昨年亡くなられたのもさびしいことでした。来年はみんな満八十八歳になり、元氣にお祝いできたらと期しています。まだ青雲会の名に恥じないように元氣に集まりたいものです。(中島暢太郎)

### 昭和十一年卒

寿一会

昭和十一年卒業のクラス会「寿一会」は、戦後三十年以上に亙り毎年欠かさず



(中島暢太郎)

年一回の会合を持っています。「寿」は幸いと長寿を願い、「一」は心を一につけという意味をかこ籠め、昭和十一年卒業に因んでおります。嬉しいのは毎回、卒業以来初めてというクラスメートが二、二名は来ることです。

出席者はまだまだ若々しく元氣で、中には少年バスケットのコーチや、八十八箇所参りの経過報告も……。

今回は十一月十一日に宝塚のホテル「若水」へ二十二名が集まり、一泊組は十一名でした。男女ともやはり戦中戦後の苦しみや亡き友人の思い出、そして健康問題と生き甲斐への取組等々、なかなかお喋りは尽きませんでした。来年の幹事もスムーズに決まり、互いに元氣で逢うことを約して帰途に。(坂部・福澤)

### 昭和十四年卒

新櫻会：現校舎での最初の卒業組

平成十三年五月二十三日、京都ホテルで「会」を開催。七十四七十五歳になっています。関東・九州からも五名参加、計二十四名(45%)が集まって歓談。各人銘銘から思い出や近況報告等があったり楽しく過ごし、終了後も、喫茶店に移って続けました。女性組は、更に夕食を共にし、翌日平安神宮の庭園を觀賞する等、心行くまで交友を温めました。(坂本誠之・中井昭子)

### 昭和十五年卒

校友会



新校舎(現在の附属小学校)が竣工して一年後に卒業した我々も、あれから六十二年。クラスメイトもかなり減ったが残っている者は皆元氣。今年も五月十二日にホテルプラザ神戸に集まった。未来都市を思わせる新緑の六甲アイランドは気持ちの良い快晴で二十五人が参加した。男子十三名女子十二名、男子は生存確認者が二十名だから出席率は65%となる。クラス会としては小泉首相並の驚異的な数字と思う。宮城県・東京など遠距離の参加者も多く、高齢化日本を象徴す



るような元氣溢れる会合となった。  
 附友会と名付けるこの会も、かつては二年に一回の開催だったがだんだん会員が減るので、数年前から毎年開催に変更し、お互いの元氣を確認し童心に帰るのを楽しみにしている。平成十四年は東京で開く予定である。(太田 寛)

**昭和十六年卒**

菊桜会(平成十一年例会)  
 昨年の武生での会で、京都でクラス会をする場合には何か催し物のある時にやっ頂くと有り難いという希望がありました。そこで本年は御所の秋の一般公開に合わせて蛤御門のすぐ近くの京都ガーデンパレスで十一月十六日にクラス会を



開かせて頂きました。出席者は男子四名、女子十名で、関西以外では関東から三名、北陸から一名の出席がありました。会食をしながら約二時間の歓談を楽しんだ後、来年の再会を約して、三々五々御所の拝観に向かいました。  
 平成十一年には九月に岡本清敏君が、十二月には東櫻同窓会の副会長として活躍されていた細川計明君と三浦春奈さんが亡くなられました。お三人のご冥福を御祈りします。(玉置日出夫)

**昭和十八年卒**

紫桜会  
 やっと秋の気配が感じられるようになった十月七日、京都ガーデンパレスに泉



美穂子先生をお迎えて二十名が集まりました。昨年を上回る出席者で、お互いの近況から小学校時代の思い出まで弾む話に楽しい一時を持つことが出来ました。更に恒例の二次会ではビンゴゲームですっかり童心に帰り、古稀を過ぎた集まりとは思えない盛り上がりで大層ご機嫌な一同、名残を惜しみつつ来年の再会を約して散会しました。(石束哲男)

**昭和十九年卒**

再び「古稀の会」  
 昨年は数え歳七十を記念して、柳原良平氏の「アングル船長の館」を訪ねる旅

を実施。今年は去る十一月三日、満七十歳の同期会を佐々木氏たちの尽力で京都で開催。イ組十六名、ロ組七名、八組(女子)十七名の四十人が集いました。  
 今日までの物故者(十六名)に黙祷を捧げた後、柳原氏の発声により乾杯懇親会に。欠席者の近況報告では顔の見えない友の身を案じたり、安心したりで話題がもり上がりました。会の後半は清水氏の指揮で懐かしい小学唱歌「冬景色」「故郷」「臨海学舎の歌」など昔に返って声をはり上げ、美しいハーモニーが部屋一杯に広がりました。記念の写真は武居氏たちがカメラマンを勤めてくれました。時間の許す友は二次会に集い、次回を約して解散しました。(中西佐智子)

**昭和二十一年卒**

昭和二十一年卒同窓会のご案内  
 私達昭和二十一年卒は、昭和六十年に第一回同窓会をひらいて以来三年毎であった開催が、第一線から退き暇になり、年齢と共に人恋しくなってきた平成六年の第4回以降は、二年に一度となったのは自然の成行きというものでしょうか。

さて、第八回は平成十四年六月一日(土)に決定。過去七回はホテルを中心とする洋食を主としたものですが、今回は少し趣好を変えて京料理の名門、高台寺土井で催すことにしました。会場の



昭和二十三年卒

新館「不急館」の四階からは、遙か西山の山並に落ちる夕日が照り映え、眼下には八坂の塔が逆光に見事なシルエットを描き出します。  
ここ数年は梅雨の最中でうつつうしい記憶が残っているので、少し早めて梅雨に入る前にしました。  
京都から離れてお住まいの方も、久しぶりに京都らしい風景を愛でながら楽しいお喋りのひとときをお過ごしください。よろこ案内申しあげます。(幹事一同)

附三会同窓会(小学校昭和二十三年卒・中学校昭和二十六年卒)を、去る十月六日(土)午後六時、京都宝ヶ池プリンズホテル比叡の間にて開催。卒業生百一十一名のうち、遠路はるばる東京や四国から同級生三十六名が出席いたしました。開会に先立ち、この一二年に亡くなった友人三名の冥福を祈り一分間の黙祷をささげました。  
高知から出席の小島渥君の首頭で乾杯し、にぎやかに宴が始まり、数々の思い出話に花を咲かせました。  
今後の附三会活動を円滑に進めるため、下鴨東本町にある「すいふと」に事務局を設置、市原厚君を名誉会長に、次回の幹事四名を選任いたしました。  
五十年以上昔ヘタムスリップした楽しいひとときはまたたく間に過ぎ、二年後の再会を誓って二次会へ向かいました。(佐谷克己)

昭和二十四年卒

平成十三年十一月十七日、久しぶりの小・中合同の同期会を開催。

・中学を卒業して五十年という節目、我ら六十五才

・南禅寺という紅葉の名所近くの会場確保 岡崎「洛翠」

・恩師の先生方 長岐・安田先生(小学校)、長沢・吉川・岩切先生(中学校)

のご出席というプランが同期生の半



昭和二十七年卒

分近い五十一名の参加を誘い、懐旧と懇親に浸る貴重な錦秋の一日と相成った。(迫田恒夫)

今回は東部地区からお便りいただきました。こちらには北海道を含めて同期生が三十四名在住(平成十三年十一月現在)。定例会はありませんが、誰それが上京してきたとか、いろいろなことにかこつけ



昭和二十八年卒

還暦同窓会を平成十一年十月二十二日に浜松名鉄ホテルにて、小学校四人中学

ては有志が集まります。多い時には二十名以上になります。最近では、京都で織物会社を営み自らも絵柄のデザインを手がける河合大介君が東京銀座で呉服・反物の展示会を開催したのを機会に、十一月二十日に集まりました。女性五名、男性七名がかけつけ、豪華な展示品で目の保養をした後、河合君を交えて食事をしながら楽しく過ごしました。  
「(これこれで)たまには集まろうや。」といつも声をかけてくれる井上明次君に感謝しています。(三原 純)

校三人の先生をお招きしましたが、当日は二名のご参加。計画進行中に京都幹事の芦原司さんが急逝され、前半は「しのぶ会」に。安田先生のお元気な姿に全員感心。東京は「ハの会」と名付けて旅行やグルメの会を持っています。

(山田直子)



「磨野学級(ろ組)クラス会」を平成十三年六月三日正午より京都都ホテルにて。磨野先生の当時の教育方針の本音が語られたり、多くのエピソードが飛び出

し、出席者一同四十八年前に戻って楽しく盛会のうちに終了。出席者は三十六名中二十二名にも及び、これを機会に今後は毎年六月第一日曜日正午から定期的に開催することに決定。(海老原和夫)

### 昭和二十九年卒

私達は今年六月二日、京都駅ビル東隣りのセンチユリーホテルで附属小(二十九年卒)附属中(三十二年卒)の同期会を行いました。我々の年代は還暦を迎える年と有って「人生の節目」、是非多数の御参加を、と呼びかけたところ、広瀬博先生、上原勉(旧性有安)先生、吉川礼三先生を含む四十五名が出席して下さいました。昔話や互いの近況報告と話が弾み、一次会、二次会と盛り上げる内、アツという間に夜も更けて、名残り惜しくも再会を約束して散会致しました。男性は定年を迎える人も多く、京都に帰って来られた方、時間に余裕の出来た方、来年は必ず出席して下さい。次回幹事は、若井輝夫、矢部(後藤)格子さんです。よろしくお願います。

最後に、昨年九月橋本帰一君が、今年九月十二日には、吉岡秀憲君が亡くなられました。謹んで御冥福をお祈り致します。

(初田憲治)

### 昭和三十三年卒

「第一回同期会」  
「こんにちわーいや、誰やわからへん。」  
そこかしこで、そんな会話が飛び交う中、小・中学校卒業後、四十数年の年月の経過を知り、改めて感慨無量でございまして。

二〇〇一年四月十四日、八重桜も美しい東山高台寺「土井」で、恩師、長岐先生、吉岡先生、中田先生、藤田先生のご参加を頂き、男女合わせて五十名弱が集まり楽しいひとときを過しました。卒業後全体での同期会を持ちましたのは今回が初めてでしたが、瞬間に当時に戻り、愛称や「〇ちゃん」と呼び合ったり、古きよき思い出話に花が咲き、時の経つのも忘れる程でございました。これを機会に同期会を今後も続けようという事になり、再会を約束いたしました。

幹事の皆さまには大変お世話さまになり御礼申し上げます。

関東地区でも昨春秋(二〇〇〇年)より、毎年定期的に催そうということになり、今年も、十一月四日、外人記者クラブで二十名弱が集まりました。新しいお顔ぶれも見ることが出来、最後には校歌まで唄い、大いに盛り上がりました。一人でも多くの方が参加して、いつまでもこのような集いが持てますことを、心よ

り念じて居ります。

(西田美代子)

### 昭和三十五年卒

十七年ぶりの同窓会  
今年の十月十七日、昭和三十五年卒のい組、ろ組合同の同窓会を十七年ぶりに京都ガーデンパレスにて開催。

当日は、お世話になった磨野先生、志賀先生、大倉先生、西村先生の四人の先生方も、元気なお姿をみせてくださいました。開会に先立ち、瀬戸本先生、小島先生をはじめ故人となられた方々に黙祷を捧げてご冥福を祈りました。

握手タイムから始まって、一人一人の近況報告、なつかしい音楽に合わせてフ





オークダンスを踊り、「学校市」の歌を歌い、いつのまにかみんな小学校の頃の自分に。高浜の臨海学舎の「青葉の峰を間近に仰ぎ…」を三番まで歌える人もいて、大喝采。開催にこぎつけてくださった、い組の上田（旧姓小森）啓子さんる組の中山（旧姓服部）和子さんに感謝しつつ、別れを惜しみながら閉会したのでした。

（落合万里子）

## 昭和四十七、四十八、 四十九年卒

「東櫻同窓生のつどい」へご参加を

我々、昭和四十七、四十八、四十九年次卒業生は平成十一年十一月より新たに実行委員会を組織して、行事、広報、名簿の各部門に分かれて、それぞれの企画運営のお手伝いをさせて頂きました。

そしていよいよ「東櫻同窓生のつどい」が来る六月十六日（日）午後二時より、京都ホテルオークラにて開催の運びとなりました。今回のつどいは、本年が附属京都小学校創立百二十周年の大きな節目の年にあたることもあり、従来の講演会に代わるものとして、今大きなブームを巻き起こしている伝統芸能、狂言の茂山家一門よりご当主の茂山千五郎氏、又、千五郎氏の次男で、本校卒業生でもある茂山茂氏をお招きして、おめでたい「未広がり」を演じて頂くことになりました。

した。

又、懇親会もビデオテープによる学舎紹介や、恒例の福引き大会、恩師の先生方とのなつかしい語り等々、いろいろと盛り沢山の内容となっております。

又、開会時間も、遠方から来られる同窓生の方々に最後まで楽しんで頂くために、従来より三時間早めて午後二時からと致しました。どうか多数の同窓生の皆様方のご参加をお願い致します。

幹事学年の同窓生の皆さん！

この「東櫻だより」が皆さんのお手元に届く頃、我々実行委員は「東櫻同窓生のつどい」の準備に大忙しの状況です。

とりわけ、福引大会の賞品集めや打ち合わせ等に人手が足りません。又、つどい当日も受付はじめ誘導や会場準備等たくさんのお手伝いが必要です。

どうかこの記念すべき「東櫻同窓生のつどい」を成功させるために皆さんのお力をお貸し下さい。この記事を読んで手伝ってやるという方は荻野（四十七年卒）、廣田（四十八年卒）、田中（四十九年卒）までご連絡を！そして六月十六日の予定を今から空けておいて下さい。どうか一人でも多くの方のご協力をお願い致します。

（荻野晋也）

## 平成十一年卒

「平成十三年十一月、第一回平成十一年卒同窓会開催」といいたいところで

が、私達の学年は、今中学三年生です。附属小学校を卒業して、また三年で大方の人達とは毎日顔を合わせています。にもかかわらず、話をしても、話をしても時間が足りない程です。毎日が同窓会状態で、楽しく過しています。また、他の中学へ行った人達ともメールで近況報告をしたり、時には会うて楽しい時間を過したりしています。

こんな毎日が同窓会の私達も、あと少しして皆が、色々な進路で中学を卒業します。小学校の横を通して通学することもなくなると思うと、少し淋しい気がします。

いつか先輩方の様な楽しい思い出いっぱい同窓会が開けるといいなと思っています。

（小林ゆかり）

### 〈お願い〉

総会の懇親会の福引きの賞品は、毎回同窓会会員の皆様のご厚意により、集められており、今回もご協力をお願い申し上げます。

尚、ご寄贈いただきました方のリストを、当日福引き大会に於いて発表し、御礼にかえさせて頂きます。

ご協力いただけます場合は、五月五日までに、FAXにて、左記までご連絡下さい。後日、実行委員より、連絡いたします。

#### 【FAX送り先】

075 722 9516

松田亮海（昭和四十八年卒）

### 〈会費納入のお願い〉

東櫻同窓会は皆様の会費で運営されています。目下、会費未納の方が多数いらっしゃいます。このままでは会の運営に支障を来す恐れがあります。是非ご納入ください。是非ご納入申し上げます。

ご納入は、同封の振込用紙にてお願いいたします。また、何か不明の点がある場合は、東櫻同窓会事務局まで文書又はFAXにてお問い合わせ下さい。

#### 【FAX送り先】

075 431 1827

ホームページの開設について

二十一世紀に入り、世の中のIT(情報技術)化はますます進展する兆しを見せております。東櫻同窓会

としても、世の中の動きに無関心でいることはできず、会員の利便を図ることが出来、かつ費用的にも負担にならない範囲であれば、技術革新の成果を積極的に取り入れていこうと考えております。このため、実行委員会が中心となり、昨年、ホームページの開設に向けての作業を開始しました。幸い、附属京都小学校のご厚意と京都教育大学のご理解により、大学のサーバーの一部を無償で提供して頂くことができました。

ホームページの利用方法としては、東櫻だより、総会や行事のお知らせなどを手始めとし、行く行くは、各学年の連絡掲示板や前実行委員が発案された『東櫻会インフォメーション』など会員同士の情報交換の場として行きたいと考えております。

現実行委員である我々の役目としては、開設に漕ぎ着けるころまでを一里塚とし、より具体的な内容については、次の幹事学年である昭和五十、五十一、五十二年卒業の方々に委ねることになります。が、会員の皆様と共に構築して行きたいと思っておりますので、企画、ご意見等がございましたら同窓会宛

mailto:kyoshou1@kyokyo-u.ac.jp)にeメールでお聞かせ願います。

最後に、同窓会のホームページを開設するにあたり、附属京都小学校の三野前副校長には、京都教育大学へのホームページ開設許可に関する問い合わせ等の労をおとり頂きました。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

東櫻同窓会のホームページ・アドレス(URL)は、左記のとおりです。(左図は附小ホームページのトップページです。)



http://www.kyokyo-u.ac.jp/FUZOKU/KYOSHOU/dousoukai/welcome.htm

同窓会名簿の改訂出版について

名簿委員長 伊藤登久子

前回の名簿は平成十一年六月に改訂され、三年目の今年が新しい名簿を出す年に当たっております。

従来、名簿の出版時期は同窓会総会の頃と重なっておりましたが、今回はより充実した情報にするため、総会直前の「東櫻だより」の送付後宛先不明の理由で返送されてきた方々の連絡先を、各年次の名簿委員の協力を得て調べ直し、データ整理をする予定でございます。

今回名簿の整理に当たっては、実行委員の昭和四七年卒の金子・斎藤・寺石各氏の努力によるところが、非常に大きうございます。今後の課題として、名簿整理に関する組織作りの見直しと、合理化をより強化することが考えられます。

さて、出版は、九月頃になり、お届けするのが少し先になりますが、購入のお申し込みは同封の振替用紙にてお願い致します。

価格は二千円(送料込み)でございます。各学年でご勧誘いただき、多くの方々にご購入いただけますよう、お願い申し上げます。

常任理事会報告

常任理事 迫田恒夫

平成十三年五月十三日開催

一、母校創立百二十周年の記念品として、大型水槽を寄贈する。

二、次回総会を平成十四年六月の日曜日を設定する。

三、次回総会に向け、昭和四十七・四十八・四十九年卒業生に実行委員会の立ち上げをお願いする。

平成十三年十一月十八日開催

一、総会について

・母校創立百二十周年記念に、茂山茂氏(昭和六十二年卒)を中心に狂言を演じていただく。

・ビデオによる母校の近況紹介。福引は無理のない範囲で賞品を集め継続する。

・母校百二十周年記念に紅白饅頭を手渡す。

二、東櫻だより 平成十四年四月中旬に総会案内を兼ね発行する。

三、会員名簿の発行は総会後に行い、より正確な名簿を目指す。

四、ホームページを立ち上げる。

平成十四年二月二十四日開催

一、創立百二十周年記念式典の報告

二、総会に関する詳細の詰め。

三、総会に提案する規約改正の検討

東部東櫻同窓会の動き

上田 章

東部東櫻同窓会の総会は平成十三年六月九日、小田急ホテルセンチュリー・サザンタワー二階で開かれました。約七〇名の会員の方が集まり、総会議事、懇親会と例年どおり会が進みましたが、今年は集まりのよくない若い会員の方にまでウイングを揚げようと講演の講師も昭和四十五年卒のコラムニスト・ライター堀井憲一郎さんをお願いし、「日本の若者の変容」という題で興味深いお話を聞きました。

京都から迫田先生の御出席をいただき、ご挨拶の中で来年は学校創立一一〇周年記念の年にあたることを紹介されましたが、本会も来年は総会を休み名簿発行の年にあたりますので、会員の方々もこそぞって京都の東櫻同窓会総会にご出席されるようにとの話がありました。

なお、本会も総会後の幹事会で、総会参加者の頭打ち、若い会員の発掘(名簿作製)などマンネリ化しつつある会を会員の創意でいかに活性化させるか真剣な検討を行っています。

東櫻同窓会会計報告

自平成12年10月1日  
至平成14年1月31日

(金額単位 円)

【収入の部】

|          |            |
|----------|------------|
| 前回よりの繰越金 | 6,269,845  |
| 名簿及び会費収入 | 5,348,850  |
| 受 取 利 息  | 7,077      |
| 合 計      | 11,625,772 |

【支出の部】

|                            |            |
|----------------------------|------------|
| 東櫻だより作成費<br>(第12号印刷費, 発送費) | 1,364,677  |
| 通 信 印 刷 費                  | 109,000    |
| 委 員 会 活 動 費                | 190,719    |
| 雑 費                        | 27,002     |
| 次回への繰越金                    | 9,934,374  |
| 合 計                        | 11,625,772 |

会計担当 野村英男 (昭和17年卒)

編集後記

東櫻だより第十二号(前号)より、本誌の発送方法を国内発送分に限りました。東櫻同窓会版構造改革の第一歩です。

これが功を奏し、本号より発送用封筒を、茶封筒から封入物が一目瞭然の片面透明封筒に、また、従来の一四頁から二〇頁に増頁することが出来、「東櫻だよりを充実させることが出来た」と幹事学年の広報委員一同自負しております。

さてその内容ですが、前号に続き、『活躍する同窓生』として昭和六十二年卒業の茂山茂氏をご紹介いたします。茂山氏には、来る総会において狂言を披露していただくことになっております。

また、新企画として『恩師』近況を掲載いたしました。本編でも記述いたしましたように、我々幹事学年の希望から始まったこの企画も、アンケートにご協力下さったり、また座談会にご出席下さった恩師の方々ならびに附属京都小学校のご協力なくしては実現出来ませんでした。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

上げます。

『恩師』近況』でご協力いただいた恩師の方々より、「未だに我々の方が附属京都小学校に関心をもっているかもしれない」旨のご発言がありました。勿論我々卒業生も母校を忘れていたわけではありませんが、今回東櫻だよりの編集に携わるまでは、同窓会にあまり関心を持っていなかったというのが正直なところです。

来る六月十六日には、母校創立百二十周年記念東櫻同窓生のつどいを幹事学年が準備を担当して開催いたします。懇親会では、現在の附属京都小学校の様子をビデオで紹介する予定であります。また、多数の恩師の方々にもご出席いただきます。母校を顧みるには絶好の機会だと思えます。

東櫻同窓会で新たにホームページを開設いたしました。皆様のご協力無しでは開店休業状態になります。会員の皆様の多大なご協力により当会をいっそう盛り上げ、日本一の同窓会に出来ればと思っております。この東櫻だよりが母校同様東櫻同窓会にも関心を持っていただく助けとなれば幸いです。

## 母校創立120周年記念 東櫻同窓生のつどいのご案内

我々の母校は、本年2月1日に創立満120周年を迎えました。今回の東櫻同窓生のつどいは記念行事として、昭和63年卒業の茂山茂氏による狂言の公演を盛り込み、下記のとおり開催いたします。

この節目の年に、多くの同窓の皆様にご参集いただき、恩師の先生方や旧友との親交を暖めたく存じます。お誘い合わせのうえ、多くの方々の参加をお待ちしております。

日 時 / 平成14年6月16日(日)午後2時より午後5時30分  
(受付開始は午後1時30分)

場 所 / 京都ホテルオークラ(旧京都ホテル)4階 暁雲の間  
京都市中京区河原町御池北東角 電話(075)211-5111

式次第 / ・同窓会総会

・狂言舞台鑑賞

演 目 : 『未広がり』

出 演 : 大蔵流狂言師

茂山 千五郎氏

茂山 茂氏

ほか

・懇親会

恩師紹介

学舎紹介

福引き など

|                    |         |
|--------------------|---------|
| 会費 / 一 般           | 10,000円 |
| 敬老会員               | 7,000円  |
| (昭和11年3月以前に卒業された方) |         |
| 大学生以下              | 7,000円  |



ご出席の方は、同封のはがき(出席回答票)にてお知らせ下さい。  
準備の都合上、5月5日(日)までに投函いただきますようお願い申し上げます。